



特定非営利活動法人

ジャパンハート

問い合わせ 資料請求送付先

特定非営利活動法人ジャパンハート 東京事務局

〒110-0016 東京都台東区台東 1-33-6 セントオフィス秋葉原 10階

TEL : 03-6240-1564

FAX : 03-5818-1610

Email : japanheart@e-mail.jp

URL : <http://www.japanheart.org/>

※本書の一部または全部を無断で複写、転載引用することを固く禁じます。



Japan Heart 2011

年次報告書

2011.4.1 ~ 2012.3.31



PHOTO © たぐるり子





子どもたちに、あなたの笑顔やところを刻みつけよう

ミャンマー、ワッチェ慈善病院で手術の合間にインタビューを受ける吉岡秀人

東日本大震災から1年以上が過ぎ、ふとこの1年を振り返ると、私たちもできる限りのことはやってきたのだと慰めることもできる。宮城県にNPO法人として震災後、唯一の診療所を開設した。主に海外の途上国医療を生業にしている団体が、先進国の日本に診療所を作るなどということは、あり得ないことかもしれない。今では、石巻地方の小児休日診療のみならず、町立女川病院へ不定期に医師を派遣している。一方、海外医療自体は、縮小させているわけではない。ミャンマー・カンボジア事業はより拡大し、組織が背負うべき社会的使命に背を向けずに、歯を食いしばって前に進んで

いる。そう思えば、確かに自分たちを慰めることはできるのだ。

しかし、何か物足りなさを感じる。その得体の知れぬ不足感・渴望感の正体は、おそらく近い将来、さらなる飛躍を遂げ、さらなる社会的責任を遂げるべき我が身・我が組織と、現在のそのギャップへの自覚なのだと思う。

未来からのメッセージは

「MOVE!」

たとえ日本が失速しようと、私たちは前に進まなければならないと自覚するのだ。

日本はどうなってしまうのだろうか?もう20年以上前から、何とかしなければと、多くの人々がエネルギーを割いてきたが、時代の動きというものはかくも大きく、人の力では動かしがたいものなのかもしれない。

時代とは、かつてはヒトラー、毛沢東、ケネディ、アメリカ、ソ連、近年の日本では民主党や野田総理など、このような誰かのせいと何かで演出されたものではなく、そのカリスマたちの存在も単に時代に動かされた登場人物のひとりに過ぎない。

時代の流れというものはかようなものだろう。

その中で、時代のたった一つの分子に過ぎないように私たち一人一人に何ができるというのだろうか?

ここに大切なポイントがある。

それはそのたったひとつの分子には“意志の力”があるということだ。

このどうしようもなく何もかもが上手くいかない時代にあって、一つ一つの分子が自らの意志に従って行動することはできる。大きな時代の動きや流れに飲み込まれて、100年後はその存在や名前すらも誰も覚えてはいないだろう。しかし、今このときに確かに自らの意志に従い、行動を取った結果は、自らの子孫の、あるいはそれを目撃した他の小さな分子たちのDNAの中にそっと刻み込まれ、いつの日か世界に何らかの影響を及ぼす可能性はある。

人の命がつながるといえるのは、単に物理的に人がつながっていくという側面と、生きている間の何らかの意識的な影響がDNAに残され、時限を超えて仕掛けられた爆弾のように、いつの日かある結果として生まれてくるという側面があると思う。

あなたがこの世にいたという証を、子どもたちに未来へ運んでもらおう。

子どもたちの遺伝子に、あなたの笑顔やところを刻みつけよう。

100年後、だれも自分など忘れてしまったそんな時代に、私の生きた証が突然、発現され、そっと天国で“にんまり”してみたい。皆さんも私と一緒にあの世で“にんまり”してみる気はないだろうか?

日本はこれからも落ちていくかもしれないが、私たち、意志ある一つ一つのジャパンハートに関わる分子は、今年も世界中の子どもたちのDNAの中にその存在を刻み続けようと決心する。

特定非営利活動法人
ジャパンハート代表

吉岡秀人



「継続」することが「復興」への地域のニーズ

震災後の2011年4月2日に石巻市に「ジャパンハート災害支援医療センター」を開院。地域の復興を支えるべく同じ場所に2011年12月27日、こども・内科クリニックを再開しました。

全国から集まる多くの医師やボランティア 石巻

クリニックのある石巻市は、宮城県第2の都市であり、医療圏としては20万人を超えるにもかかわらず、震災前から小児病床は石巻赤十字病院の20床のみという十分とはいえない状況の上に、被災した石巻市立病院は再開できず、地域のクリニックも減少傾向がありました。そこで、震災直後にプレハブにて医療活動を行った同じ場所で、昨年末より「ジャパンハート こども・内科クリニック」を開院。被災地で手薄な診療体制を補完するという役割から、近隣の医療機関が休診の土日祝日に開院しています。

岡山、関東を中心に、南は九州からも医師が駆けつけ、開院からわずか半年で20人以上の医師がクリニックでの診療を行っています。

1日20から30人、多い時には50人ほどの患者さんが来院し、地域の方から「他の医療機関の休診日に診療をしているので、助かる」との声を多数いただいています。

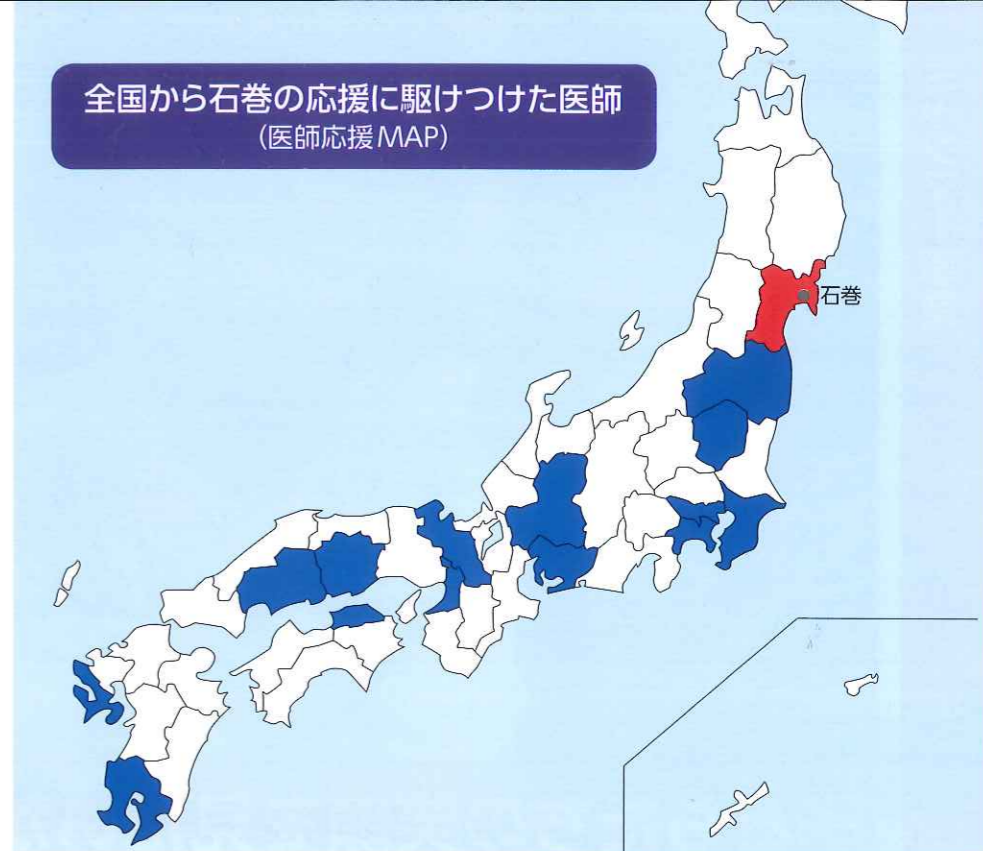
2012年5月から医師不足に悩む隣町、女川町唯一の医療機関である女川地域医療センターへ、医師の応援による診療支援を開始。さらに他の医療機関への支援も行っています。

今後も現地のニーズを把握しながら、体制が整った時点でクリニックの平日診療を開始し、地域の方々に信頼されるよう継続的な支援活動を行い、地域での医療連携を図っていきます。

皆さまのご協力により、震災から1年経過した今現



在も被災地域での活動を継続することができています。ジャパンハートは今後も皆さまのお気持ちを現地へ運び続けます。



看護師による仮設住宅への訪問と健康相談会 南三陸

震災から5カ月が経ち、各被災地の住民の方々は避難所から仮設住宅へと徐々に移っていきました。そこでは生活環境の変化に伴い、隣人とのつながりの減少から閉じこもりがちになったり、また避難所の救護所がなくなった事で、医療へのアクセスは、より困難になりました。従って、南三陸町の戸倉地区の仮設住宅への個別訪問や、「お茶っ子」と呼ばれる仮設住宅での交流会で、看護師が定期的な健康相談会を実施。コミュニティー形成や健康面へのサポートを行っています。



心のケア 石巻 気仙沼

2008年にミャンマーを襲ったサイクロン「ナルギス」により被災した子どもたちの心のケアを現在も継続して行っています。その時の教訓から「被災直後からの関わりが重要」、そして「長期的なケアが必要」との認識のもと、震災後の4月から、気仙沼の幼稚園5園へ小児科医による訪問を行っています。今後も、心理士やトラウマケアの専門家の協力のもと、長期的な支援を行っています。

昨年末より石巻でクリニックを開院し、今後は周辺住民の方々のニーズに合わせた心のケアを行っています。

多くの団体が活動を終えていく今だからこそ、石巻の皆さんに全国の方々が応援していることを伝え、また、全国に石巻の現状を知ってもらい、一緒に復興について考えてもらえるよう、情報発信を行っています。



幼稚園の保育士さんを対象としたトラウマケアセミナーの様子



子どもたちの笑顔を見たいから

2011年度は、これまでの活動を充実させ、更に発展させることに加え、新規に人工透析事業などに着手しました。

ザガイン・ワッチェ慈善病院医療活動

ジャパンハートは2004年の団体設立時から、ミャンマー中部ザガイン管区のワッチェ慈善病院で医療活動を行っています。2011年度は9,634名の外来診察(2010年度 7,741名)と共に、1,969件(2010年度 1,312件)の手術を実施してきました。18歳以下の子どもに対しては、手術費用・薬代・入院費・交通費などを完全無料にしています。噂を聞きつけて、時には遠くの村から数日かけてやってくるなど、患者さんの数は

年々増加傾向にあります。病院では医療を学びに来たミャンマー人看護師や医師が日本人医療者と、一丸となって、「体の病気だけではなく、心も癒される病院」を目指し、昼夜を問わず活動を行っています。

主として子どもたちの治療・手術は、J.S. Foundationの協力を得て実施し、医学生奨学金事業は一般財団法人新倉会の支援を得て実施しています。



ワッチェで働く看護師たちです

その他保健活動

2008年度より開始した、地域の寺子屋に通う子どもたちと先生を対象にした保健・衛生教育活動を今年も継続して実施しています。また2011年8月から、ワッチェ慈善病院より車で2時間ほどのところにある市中病院へ、看護師スタッフをサポート要員として派遣しています。

サイクロン孤児支援

2008年のサイクロン「ナルギス」災害から4年。ジャパンハートは災害で親を亡くした子どもたち50名に対し、個々の状況に合った生活支援と身体・精神両面の医療サポート、進学費用などの教育支援を継続しています。

DreamTrain

2010年度よりスタートした、身寄りのない子どもたちが暮らす児童養育施設「Dream Train」では、2011年11月に新しい棟を増設し、当初は28名だった児童数も現在では130名を超え賑わいを増しています。生活費や教育費は、日本に住む里親の皆さまのご支援に支えられており、子どもたちは三食十分な食事をとり、毎日午前9時から午後3時まで地域の学校に通っています。

タイとの国境に近いミャンマー北東部シャン州から遠く離れたヤンゴンにやってきた子どもたちは、初めのうちは寂しさと不安から泣きだしてしまう事もありますが、20人の親代わりのスタッフ、指導してくれる年長



この笑顔に癒されます

透析事業

ヘビに噛まれるなどで急性腎不全患者の多いミャンマーでは、人工透析設備が未だ整っていないために毎年多くの命が失われています。

そのためジャパンハートは2011年度より、ミャンマーの透析治療をよりよくするため、日本から透析専門家を派遣し、現地の専門技術者を育成する活動を開始しました。11月にヤンゴン中央病院にて開催した5日間に渡るセミナーには、ミャンマー全土から、医師・看護師・技師が60名以上参加しました。



の子どもたちとたくさんの友達に囲まれて、今ではどの子もすっかり打ち解け、笑顔が見られるようになりました。今後は子どもの出身地をミャンマー全土に拡げ、より多くの恵まれない子どもたちが「未来」に向かうお手伝いをしていきます。



これが通学用のスクールバスです

視覚障害者自立支援事業

ジャパンハートは社会福祉事業として、2010年度より、外務省の「日本NGO連携無償資金協力」を受け、ヤンゴンに開設した訓練センターにおいて、視覚障害者の医療マッサージ教員を養成する活動を行ってきました。2012年3月には、日本人専門家から2年間の

訓練を受けた第一期生10名が卒業しました。彼らがそれぞれの出身盲学校に戻り、今度は自分たちの生徒に対して医療マッサージを教えていくことで、ミャンマーに住む視覚障害者の社会的・経済的自立を目指しています。



カンボジア人がカンボジア人を救う 自立へのお手伝い

医療崩壊から35年。医療の知識・技術が不足しているカンボジアで医療者の指導・教育の支援も行っています。

医療活動

2008年より調査開始したカンボジア事業も4年が経過しました。現在活動を行っているブレイベン州ピエリアン郡の病院には、遠くからも患者さんが来院するようになり、患者数が増加しています。

2011年度は手術室を改修した病院で3か月間の手術技術指導を行いました。実践経験のない医師・看護師



8名に手術の指導を始め、終了する頃には小さな手術を自分たちだけで行うことができるようになりました。3か月間で診察した患者さんは1,028人。手術件数は194件。3か月間の活動を終了した後も、多くの患者さんが現地の病院で手術を受けることができるようになりました。今後も継続して支援していきます。



保健活動

2011年度は、医療者を対象に一次救命処置指導の4回コースを、ヘルスセンターと呼ばれる診療所で実施しました。新しい知識や講習への興味は高く、指導時の反応は好評です。

また、高校での応急処置の授業、小学校での生理の授業も実施しています。



夢の架け橋活動(奨学生支援活動)

カンボジアでは医学生看護学生に対して学費・生活費支援をしています。2011年度は医学生2名を受け入れました。現在は4名の医学生・看護学生がジャパンハートの活動に参加しながら知識・技術を学んでいます。また、奨学生支援として一人一人の学生の学費・生活費支援をしてくださる方を募集しています。



病気とたたかう子どもと家族の応援団

小児がんの治療をがんばる子どもたちとご家族に対して、楽しい旅行や思い出作りを医師・看護師がサポート。かけがえのない時間が、本人と家族にとって次の治療を乗り切る勇気になるように。そんな願いを込めたプロジェクトです。

2011年度は21人の患者さんとご家族の旅行をお手伝いしました。旭山動物園をはじめ、横浜のアンパンマンミュージアム、東京ディズニーランド。また、沖縄でイルカと一緒に泳いだり、親戚やお友だちに会いに行ったり、生まれて初めて北海道へ雪を見に行ったりと、たくさんのご家族に楽しい時間を過ごしていただく事ができました。



旭山動物園にて



アンパンマンミュージアムにて



ディズニーランドにて



イルカと一緒に泳ぎます

初の団体イベントで、安心・安全な一日をプレゼント

〈事例紹介〉

2011年11月には、1泊2日で8組のご家族をディズニーランドにご招待しました。何よりも安全に楽しい時間を過ごしてもらうため、園内には医師、看護師をはじめ、多くのボランティアスタッフを配置し、一定時間毎に体調チェック、園内見回りを行いました。

体力や抵抗力が低下している治療中の子どもはもちろん、幼い兄弟姉妹や妊娠中のお母さんまで、参加者全員に安心して過ごしていただけるよう総勢33名でサポート。

ご家族皆さんに喜んでいただけました。

参加されたご家族からは、「入院してから初めて家族でゆっくり過ごした」「子どものこんな笑顔を見たのは一年ぶり」「自信が持てたのでまた家族で出かけてみようと思う」「治療で一番辛かった時に希望ができた」「もう一度ディズニーランドに行きたい、その気持ちで最期まで前向きに治療に取り組めた」など、たくさんの声が寄せられました。





ひとのため→じぶんのため

「国際看護長期研修」を中心に「国際医師長期ボランティア」「国際短期ボランティア」を統括する事業です。経験や年齢を問わず、個人の状況に合わせて国際医療に参加できるプログラムを組んでいます。

医療活動

看護師の国際看護長期研修では「医療の届かないところに医療を届ける」というジャパンハートのコンセプトのもと、活動地であるアジア、また国内僻地離島において臨床医療を実践し、将来国際的な舞台で緊急医療、地域医療などで活動できる看護師を育てています。

研修では、2年間のプログラムを通して、地域や風土の異なる医療の実状を知り、限られた医療・生活環境の中で看護判断力、技術を養うとともに、チーム医療などを学びます。医療が届かないところでの看護を通して、1年目は「体験する」、2年目は「役割を持って参加する」をテーマに、研修終了後の自己実現に向かって、各々が研修目標を立案し、達成に向けて「心・技・体」の3側面で成長していくことを目指しています。研修を

終えた看護師はジャパンハートの事業リーダーのほか、他の国際医療組織、日本の医療機関、大学院などに進んでいます。研修は各々の自己実現に向けてのステップであり、今後は中堅看護師の個々のキャリアアップとして利用されることを期待しています。

2011年度はワークショップなどをとりいれた研修合宿を実施（4回）。定期的な個人面談などのサポート体制も充実し、21名の看護師が参加しました。また看護師説明会の実施（2回）、長期研修ポスターの作成などにより、問い合わせや応募数も増えています。

国内研修では、新たに長崎県対馬いづはら病院での研修も始まり、研修地は合計4か所（山梨市立牧丘病院・隠岐島前病院・長崎県上五島病院）になりました。



高速船事故対策訓練の様子～国内研修（長崎県対馬）～

【ミャンマー研修を終えて】

2011年度長期研修生 栗木 幸代

「人間として・看護師として成長したい」私にとってこの「成長する」とは、自分のことばかりでなく、「他人のことを想って、行動できるようになる」ということでした。親が子供を思うように、看護師が患者さんのことを考えるように、他人のことを大切に想えるようになりたい。患者さんに関わる時、丁寧に対応すること、優しくすることは意識すればできます。しかし、気持ちがついていかず上辺だけの私がいる時もあり、一生懸命のことを考えている人を見ると羨ましく感じました。ただ、どんな時でも同じ研修生やミャンマー人スタッフ、そして患者さんや村の人達、日本にいる家族や友人・知人に支えられていました。研修に参加すると話した時、それを止める人はいませんで

した。「頑張っ」と応援して、支えになる言葉をくれる人達ばかりでした。研修の後半も、日本でお世話になった人達は変わらず応援してくれていました。いろんな人達に支えられていたからこそ、最後までやり通せた研修だったと思います。そんな人達や、他の誰かに何かを返していけたらと思いました。

医療の知識も技術もまだまだ足りません、それでも気持ちを何かの形で表していきたい。自分から積極的にに関わり、沢山のことに興味を持ち、知っていききたい。そして言葉にして誰かに伝えていく。拙くてもいい。人と人のつながりを感じ、それを言葉に表していこうと思いました。それが、この研修を通じてたどり着いた気持ちであり、次の目標です。

国際医師長期ボランティア（医師）

ミャンマーを中心にカンボジア、および宮城県石巻市における「ジャパンハートこども・内科クリニック」などで実際の現場で臨床医療に従事していただきます。キャリアは問わず、外科だけでなく、内科や小児科などの医師も参加しています。

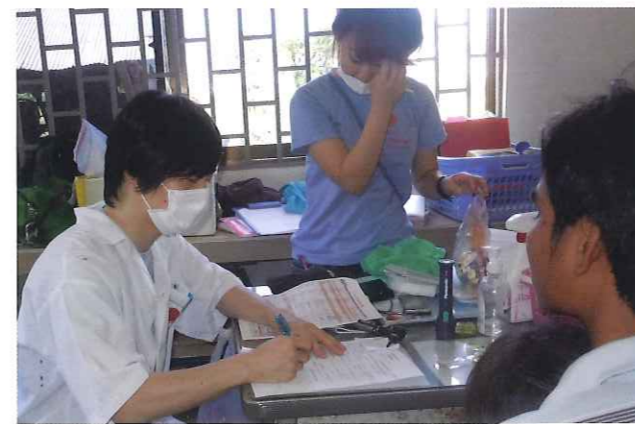


国際短期ボランティア（医療者・一般）

医療者はもちろん、一般、学生の方にも参加していただけるボランティア活動です。

2011年度は153名（医師53名、看護師56名、学生32名、

一般12名）の方が参加されました。またカンボジアでは宿舎が新設され、より多くの方が快適にご参加いただけるようになりました。



2011年度 収支計算書

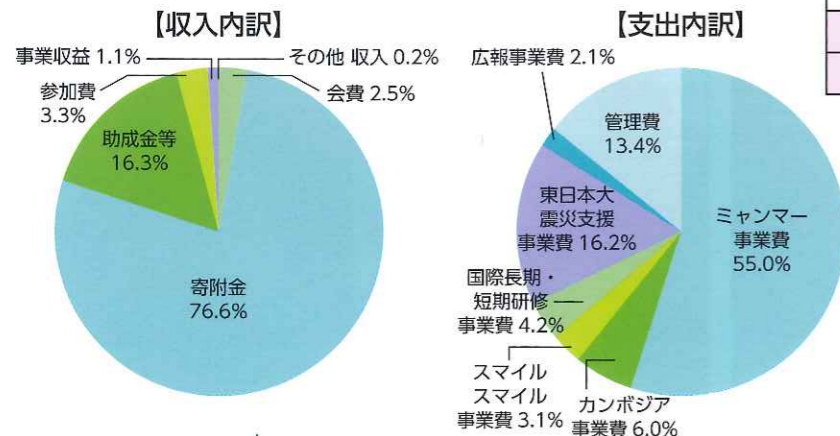
2011年4月1日から2012年3月31日まで (単位:円)

科目	決算額	前年度決算額
I 経常収入		
1 会費収入	9,037,000	6,124,000
2 寄附金収入	282,688,972	101,088,667
3 助成金等収入	60,291,154	13,894,051
4 参加費収入	12,308,800	
5 事業収益	4,143,121	
6 その他収入	807,180	102,027
経常収入計	369,276,227	121,208,745
II 経常支出		
1 事業費		
(1) 人件費	46,949,308	
(2) その他経費	129,033,268	
事業費計	175,982,576	110,423,079
2 管理費		
(1) 人件費	12,068,558	
(2) その他経費	15,054,744	
管理費計	27,123,302	9,348,788
経常支出計	203,105,878	119,771,867
当期経常収支差額	166,170,349	1,436,878
III 経常外収入		
過年度損益修正益	22,917,956	340,000
経常外収入計	22,917,956	340,000
IV 経常外支出		
過年度損益修正損	134,783	609,220
経常外支出計	134,783	609,220
税引前当期正味財産増減額	188,953,522	1,167,658
法人税、住民税及び事業税	70,000	
当期正味財産増減額	188,883,522	1,167,658
前期繰越正味財産額	130,164,880	128,997,222
次期繰越正味財産額	319,048,402	130,164,880

2011年度 貸借対照表

2012年3月31日現在 (単位:円)

科目	金額
I 資産の部	
1 流動資産	
現金預金	231,681,647
その他	5,633,819
流動資産合計	237,315,466
2 固定資産	
(1) 有形固定資産	
土地	27,942,305
建物	21,454,985
リース建物	11,812,500
車両運搬具	1,581,106
什器備品	7,512,718
有形固定資産計	70,303,614
(2) 無形固定資産	
ミャンマー土地賃借権	22,039,740
ソフトウェア	1,038,800
無形固定資産計	23,078,540
(3) その他の資産	
敷金	360,000
その他の資産計	360,000
固定資産合計	93,742,154
資産合計	331,057,620
II 負債の部	
1 流動負債	
未払金	1,135,165
前受金	7,799,830
預り金	654,323
未払法人税等	70,000
流動負債計	9,659,318
2 固定負債	2,349,900
固定負債計	2,349,900
負債合計	12,009,218
III 正味財産の部	
前期繰越正味財産	130,164,880
当期正味財産増減額	188,883,522
正味財産合計	319,048,402
負債及び正味財産合計	331,057,620



2011年度は、3月11日に発生した東日本大震災により、活動が大きく影響され、講演会の開催数は減りましたが、内容の濃い活動を行うことができました。

又、学生有志の協力の下、2012年1月21日に吉岡代表の講演会をUstream放送にて実施し、テレビを見ない層の人たちへ、団体の活動を知ってもらいつつあります。また、学生企画チームが主体になって、新たな企画として、後述の通り、新規取り組みを行っています。

● 講演会

代表 2011年12月19日 東日本大震災復興支援活動報告会
 2012年1月21日 Ustream 放送 @ JICA 地球広場
 同年3月17日 学生限定の講演会
 医師・看護師・広報部長も全国各地で講演



● テレビ放送・Ustream 放送

日本放送：日本の処方箋 (2011年4月28日)
 JPLIVE社の協力を得て、2012年1月21日にUstream放送を初めて実施し、大きな反響を得た。
 同年3月17日に、石巻の子ども・内科クリニックをミャンマー国営テレビ局であるMRTV社の取材を受け、同3月19日ミャンマーで放映された。



● 新聞・雑誌掲載

新聞
 2012年2月24日朝日新聞夕刊に「小児科医不足深刻な状況」他 掲載多数

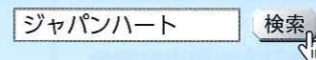
● 受賞

大山健康財団賞を3月15日に受賞した。過去10数年にわたる吉岡秀人の海外医療活動が高く評価されたもの。

● 新規企画

これまでの事業報告書、ホームページとメルマガによる広報に加え、Facebook、twitterなどを活用した広報を行った。その結果、Facebookでは新規に読者が大幅に増えるなど効果が出ている。

最新の情報は web site で
 ジャパンハートのホームページから



<http://www.japanheart.org/>

メールマガジンを毎月2回定期配信中

ジャパンハートのホームページから
 登録下さい。

ブログ、facebook でも活動を報告中。
 ホームページの以下バナーより入って
 下さい。



書籍のご案内

3年振りの新刊本

「命を燃やせ」

アジアで1万人以上の子どもを救い、東日本大震災で延べ500人ものボランティアを送りだした著者が贈る究極の生き方指南
 2012年発行 (講談社 ¥1,500+税)



「飛べない鳥たちへ」

2009年発行 (風媒社 ¥1,500+税)

「死にゆく子どもを救え」

2009年発行 (富山房インターナショナル ¥1,300+税)

私たちの活動に参加しませんか？

ジャパンハートでは、さまざまな形で活動へ参加していただける方を募集しています。

会員として参加

賛助会員・正会員（医療従事者・一般・学生・法人会員）として、私たちの活動をサポートしてください。

○会員の特典

1. 活動地の見学・ボランティア・各研修への参加
2. 年次報告書（年1回）、メールマガジン（月2回）等の購読
3. 総会での議決権（正会員のみ）
4. 当団体のwebサイト上の国際人道支援協賛団体リストへの掲載、
Webサイト、企業パンフレット、その他印刷物等に、当団体のロゴの記載が可能（法人会員様のみ）

年会費		お申し込み方法
	正会員	会員登録用紙を郵送・FAX・メールにて東京事務局へお送りください。 （用紙はWebサイトからダウンロード、または事務局へご請求ください） 到着確認後、メールもしくは電話で、振込方法をご案内します。
医療従事者	20,000円	
一般	10,000円	
学生	10,000円	
法人会員	100,000円	
		賛助会員
		18,000円
		10,000円
		6,000円
		60,000円

2011年5月より改訂

寄付・募金で参加

寄付金、募金は活動地での薬品・医療器具等購入及び活動費として大切に使用させていただきます。

ジャパンハートは2011年11月、国税庁より認定NPO法人として認定されました。

当団体へのご寄付は、税制優遇の対象となります。

*会費・参加費などは対象外

ご寄付方法

- ・下記口座へのお振り込み
- ・口座からの自動引き落とし
- ・オンライン決済

【振込口座】	
銀行名	ゆうちょ銀行
口座名義	特定非営利活動法人ジャパンハート
口座番号	00910-3-166806
<他の金融機関よりお振り込みの場合>	
銀行名	ゆうちょ銀行 預金種目：当座
金融機関コード	9900
店名	〇九九（ゼロキウキウ）店
店番	099 口座番号：0166806

【東日本大震災支援活動への支援金専用口座】	
銀行名	ゆうちょ銀行
口座名義	ジャパンハート東日本大震災支援金
口座番号	00170-3-655603
<他の金融機関よりお振り込みの場合>	
銀行名	ゆうちょ銀行 預金種目：当座
金融機関コード	9900
店名	〇一九（ゼロイチキウ）店
店番	019 口座番号：0655603

東京事務局ボランティアご紹介

【寺本 かすみさん】

たくさん子ども達の未来を救おうとするジャパンハートの活動に賛同して、微力ながらお手伝いさせていただいています。医療の面では役に立てませんが、誰にでもできることがあると信じ、少しでも多くの人々の笑顔につながることを願っています。



里親として参加

ミャンマーの養育施設「Dream Train（ドリームトレイン）」で暮らす子どもたちの養育は、里親制度を基盤としています。一人の里親に対して一人の子どもを紹介し、年に2回子どもの成長記録（写真・手紙）をお届けします。里子に会いに現地に行くことも可能です。まずは詳しい資料をご請求ください。



ボランティアとして参加

医療の知識、経験がない方でもどなたでもご参加いただけます（*海外での活動は会員のみ）。ミャンマーでは病院や養育施設「Dream Train（ドリームトレイン）」にて、日本では東京事務局や各種イベント、スマイルスマイル事業へのサポートなどにて皆さまの参加をお待ちしています。詳しくは東京事務局へお問い合わせください。

1. 国際短期ボランティア（ミャンマー）

●ザガイン・ワッチェ慈善病院

手術や診察に来る多くの患者さんであふれる病院では、外来診察介助、病棟看護ケア介助、ガーゼの作成、滅菌、医療器具の洗浄・滅菌手伝い、患者さんとの交流、および現地人スタッフへの日本語教育などの仕事を体験できます。



●Dream Train

養育施設「Dream Train（ドリームトレイン）」で生活する子どもたちの食事・掃除・洗濯をスタッフや子どもたちと一緒に手伝ってください。一緒に遊んだり、勉強したりと、言葉は通わずとも、無邪気な子どもたちと交流が図れます。

3. スマイルスマイル事業での企画のサポート

企画から実行までの各種調整・当日の付き添い、しおりやアルバム作成などスタッフをサポートください。医師・看護師の方はもちろん、一般の方のご協力もお待ちしています。

2. 国際短期ボランティア（カンボジア）*医療者のみ

現地の病院における外科手術のほか、医療機関へのアクセスが悪い村での巡回診療を行っています。それらは短期ボランティアの医師・看護師が主体となって行っています。そのため、医師は外科内科問わず、看護師はキャリアによって手術介助や病棟管理などを私たちと一緒に行っていただけます。



4. 東京事務局での運営サポート

宛名書きやパソコン入力作業、資料請求の発送作業など東京事務局でお手伝いください。また、イベント開催の際には会場でのお手伝いをさせていただくこともあります。

現在活躍いただいているボランティアの皆さんは約30名。週に一度、不定期など、ご都合にあわせて参加していただけます。

【清水 聖子さん】

日本中に広まった悲しみの中、いち早く活動を開始されたパワーに圧倒されながら、それだけにとどまらず他のさまざまな活動をも現実に変えていく皆様の中に浸りながら、幸せを感じて参加しております。この環境を大切に、そしてますます楽しんで続けられることを願う私です。

